

西田義雄さんを偲んで

平田文孝

平成十五年五月二日（金曜日）、建物調査のため職場の後輩と連れだって朝から現場へ出かけていたところ、協会本部職員から今朝の四時三十九分西田さんが亡くなったとの訃報を携帯電話で聞かされた。

〈え・・！〉四日前、いつものように近所の食堂で昼食を一緒にしたのに、この日の西田さんは、歩くのおぼつかない状態で本人の口から息をするのも苦しいとっておられた。そして「身体をあまえさせたらあかんのや」と話されていたことが最後の会話となってしまいました。今は残念な思いでいっぱいです。

西田さんとの最初の出会いは、京都府教育委員会文化財保護課建造物係の課長補佐をされていた昭和五十四年七月のことでした。重要文化財 同志社 彰栄館建物の調査・修理設計を通してで、修理予算を決定する段階に差し掛かっていたとき、西田さんはいつもの様ににこりと会釈され、ご苦労さんやな出来ましたかと労いの言葉をかけてこられ、微笑みながら平田君これを見られましたか、〈私は当初から付いていた鎧戸を見落とし予算計上していたのですが〉、古写真の写っている像を指しながら現地で一緒に検証してみましようと話しかけてこられたとき、なにか「人の優しさ」、「人の心」のようなものを私に感じさせてくれたことを今も覚えています。

昭和五十七年五月京都府退職、同年六月から当協会研究員として迎えられ、研究室建築部長、財団法人建築研究協会理事、技術顧問の役職を勤められ、逝去までの二十一年間私たち文化財建造物修理の指導にあたられてきました。一方、現地調査などの手伝いをさせていただいた夏の日の暑いときなどは、我々の気持ちを察知されてしまい、調査を終えた帰りにビヤガーデンなどへ連れだって立ち寄り、若年から年配者までの幅広い範囲に亘って人間関係、人生観など様々なものについて会話をしていただき、また西田さん御自身が府庁に居られた時代の話の参考によく聞かせていただけました。有難うございました。

殊に、京都府職員時代の時のことでよく口にされていた一つに、約四十年前主任として手掛けた醍醐寺五重塔（国宝）の解体修理の話であり、西田さんご自身心に深く刻まれた仕事であったことが感じとれるものでした。このほか代表的な修理で「六波羅密寺本堂」、

「高台寺開山堂・表門」、「仁和寺五重塔・御影堂」の解体修理の思い出話を聞かせていただけました。また、当協会においては本堂、客殿、庫裏など伝統的な木造の設計、古代建造物の復元設計、その他建造物修理の設計監理を手掛けてこられました。本当にご苦労様でした。亡くなられる直前まで製図板に向かい原寸図を画かれていた西田さんの意思をこれから我々が引き継ぎ守っていきたいと思っております。やすらかに眠りください。

心からご冥福を祈っております。



合掌